

# みどりひと



みどりの新聞 平成18年12月27日 発行 No.138



昭和40年の青梅街道



現在の青梅街道

青梅街道は江戸幕府により整備された五街道と同等の主要な街道で、生活と産業道路（青梅の白壁用石灰、木材、薪炭の輸送用）の二面をもつ街道でした。五街道の甲州街道から新宿で分かれ、青梅、さらに多摩川に沿って上流の留浦までの約92km、区内は約6・8km、先は酒折で甲州街道に合流するので、甲州裏街道とも称されていました。現在荻窪〜池袋間を走る地下鉄丸の内線が、昭和37年に全線開通し、大正10年から荻窪〜新宿間を走っていた路面の都電杉並線が昭和38年で廃止されました。それに伴い線路や敷石の撤去、都市計画による道路関連工事が続き、街

## 連載

### すぎなみの街路樹

## 杉並の幹線道路・青梅街道の「イチヨウ」

路樹の植栽は一からの出発となったとのこと。

本街道の街路樹は東京都の木である「イチヨウ」です。イチヨウは落葉樹で、大気汚染に強く、耐火性・耐寒性に優れ、病害虫も少なく、寿命も長く、移植が容易で樹形と黄葉が美しいことから、都内街路樹の代表的5種のトップに数えられています。

現在街路樹が植えられるのは、通行者への緑陰の提供や都市景観の向上などの効果を期待してのことですが、その歴史は戦後にまで遡ります。戦災により街路樹が激減した東京では、みどりを欲する人々の思いから積極的な街路樹整備が行われました。その後、昭和39年の東京オリンピックに向けた都市改造の結果、街路樹の本数は大幅に増えることとなりました。昭和40年代に公害が社会的問題になったからは道路緑化がさらに進むようになり、今日に至っています。

イチヨウといえば種子の「ギンナン」が思い浮かびますが、ギンナンの独特の臭いの問題もあり、街路樹としては意識的に種子のならない雄株が多く選ばれているとのこと。

夏の緑陰にはケヤキとは異なるやわらかさを感じますが、皆さんはいかがでしょう？

銀杏散る遠くは風の音すれば 富安風生

専門家に聞く

## 園芸ワンポイント

指導 福本伊之助 先生

みどりに関する専門相談は 塚山公園みどりの相談所 TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)



### クリスマスローズ(キンポウゲ科)の育て方



花の少ない冬から早春にかけて雪の中でも凛として咲く、寒さに強く丈夫な宿根草のクリスマスローズをご紹介します。市販されている大半のものは英名レンテンローズかその雑種で、本当のクリスマスローズはヘレボラス・ニゲルのことです。レンテンローズはキリスト教の四旬節(レント)の頃に咲くため、この名が付いたといわれています。ヘレボラス・ニゲルは日本では1月上旬頃から、3月上旬頃まで、花を楽しむことができます。最近では交雑を繰り返し、沢山の種類の花を楽しむようになってきました。

### 栽培のポイント

#### ●露地植え

寒さに強く、丈夫で、明るい半日陰を好みます。夏の高湿乾燥を嫌うので、庭植えの場合、東向きの落葉樹の下のような所が最適。世話は除草してやる程度で大丈夫です。夏、乾きやすい所ではマルチング※1して乾燥と地温の上昇を防ぎ、夕方につっぱりと水を与えます。秋から春も生育期なので、乾かさないうちに時々水を与えます。

#### ●鉢植え

根が細く乾きに弱いので、水やりを忘れずに。冬は、南向きの軒下などに置き、霜に当たらないようにすれば花の傷みが少なく、長期間楽しめます。夏は、北向きの場所へ移し涼しく過ごさせるとよいでしょう。

#### ●殖やし方

株分けとタネまきが容易ですが、株分けは秋9月下旬頃がよく、あまり細かく分けられないほうが生育、花立ち共によくなります。種は熟してから採りまきすると、翌春発芽して3年目に開花します。

#### ●花がら摘み

開花後、いつまでもガク※2が残っていますが、特に種が必要でなければ、株を弱らせないため切り取ります。

#### ●肥料

元肥は腐葉土・緩効性化成肥料、追肥は11〜3月に薄めの液体肥料を月1〜2回施します。

### 生育管理表

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	開	花					生	育			開
							水	やり		施	肥

※1 根元をワラや腐葉土で覆う ※2 花弁のように見えるものはガク



## チャドクガにご注意

今年はチャドクガの幼虫(毛虫)が大発生しました。チャドクガは毎年5〜10月ごろにチャツバキ・サザンカなどのツバキ科の樹木に発生します。今年は例年より数が多く、餌を求めた幼虫が這い回り、人への被害もたくさん出ました。チャドクガは樹木にとっては葉の食害虫であり、人間にとっては毒毛を持つ不快害虫です。チャドクガは4月下旬卵から孵ったあとしばらくは集団で生活し、その後、分散して葉を食害し続けます。土中で蛹になり、7月ごろに羽化後、再び同じサイクルを繰り返し、この二回目羽化した成虫の卵が越冬します。

卵塊、幼虫、成虫すべての段階で化学物質を含む毒針を持つため、触れると痛みや痒みなどの皮膚炎を起します。刺され

たらガムテープなどで毒針を除去後、水で洗い流し、抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟こうを塗ります。症状が重い場合はなるべく早く病院へ行きましょう。

チャドクガの駆除は卵の時と幼虫が孵ったばかりの時が好機です。枝や葉ごと切ってビニール袋に入れて燃えるごみに出しましょう。

分散した後は厄介です。一匹一匹捕殺するか、数が多く範囲も広い場合は薬剤散布を行うことになります。

葉を食べられた樹木が枯死することはありませんが、それよりも人への被害のほうが深刻です。害虫が大量発生しやすい都会では、庭にツバキ科の木を大量に植えるのを避けるのが無難なようです。



### 編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティア杉並と協働で編集しています。

- あちこちの花壇でスイセンが芽を伸ばして早春が来るのを待っている感じです。(青)
- 街路樹シリーズが続くと思いますが、駅前広場の「みどり」も紹介できたらと思っています(芦)
- 落ち葉の季節となりました。落ち葉はやがてみどりに生まれかわります。ゴミとしてでなく、できるだけ再利用して土に還しましょう(山)

みどりの新聞 みどりとひと138号 平成18年12月27日発行

編集/みどりのボランティア杉並 編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111 「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。



# 環境博覧会すぎなみ2006レポート



10月14、15日の両日、高井戸地域区民センターにて、環境博覧会すぎなみ2006が開催されました。

このイベントは、環境について考え行動するための、環境団体・学校・企業・行政による出展・催し物で、今年の環境博覧会のテーマは、地球温暖化防止。「地球を救えp(^-^)qすぎなみ省エネ作戦」をスローガンにさまざまな催し物がありました。

各ブース、特にみどりに関するものでは、竹の間伐材や剪定枝・落ち葉を使ったクラフト、みどりに関するクイズ、腐葉土づくりの紹介、ヒートアイランド現象の解消に効果があると言われる屋上緑化や壁面緑化の見本や活動報告の展示が複数出展されていました。

みどりとひと137号でご紹介した、みどりのボランティア杉並作成の「みどりのカーテン」も展示され、省エネ相談総合窓口「エネルギーハウス」を飾っていました。

来場者は述べ15,000人、参加された皆様は省エネ行動のきっかけを見つけられたでしょうか？



①



②



④



⑤



③



⑥

- ①みどりのカーテン
- ②竹を使った工作
- ③木の実や剪定枝を使ったクラフト
- ④手作りの巨大カマキリ
- ⑤屋内でチョウなどの昆虫と触れ合える生き物ハウス
- ⑥木のペンダントづくり

## 緑の歳時記

### イチョウ (公孫樹・銀杏) イチョウ科

中国原産の落葉高木で、日本では室町時代頃からすでに栽培されていたといわれ、秋の黄葉は大変美しく風情があり、老木になると「乳」と呼ばれる気根\*が垂れ下がる場合があります。

この木は雌雄異株の原始的な特徴を持つ裸子植物で、中生代ジュラ紀にもっとも栄えたグループの一つで、生きた化石と言われ、一科一属一種です。

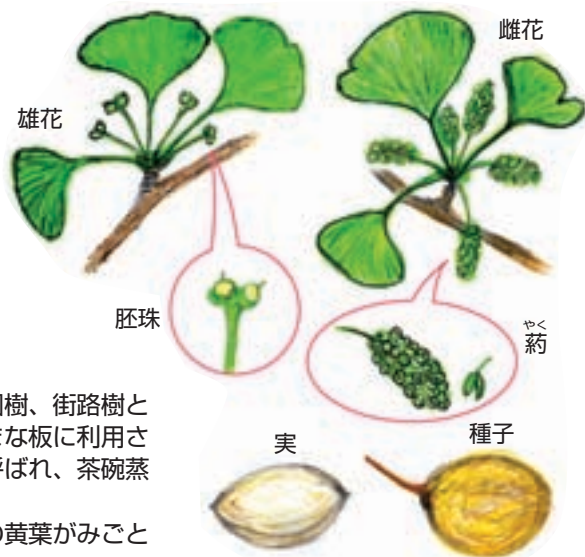
風で運ばれた雄花の花粉が雌花の胚珠\*につき、この花粉から9月頃べん毛を持った精子が現れ、これが泳いで胚珠内の卵細胞に達して受精するのです。これは明治29年、平瀬作五郎氏によって発見され、人々を驚かせました。

和名の由来は、1. 中国名の一つ「鴨脚樹」の「鴨脚」の発音を日本で「ヤーチャオ」と聞き、それが「イーチャオ」となり、転訛してイチョウとなった 2. 葉が1枚であるため、イチョウ（一葉）の意味、などがあります。

中国に留学した僧が持ち込んだことから、寺院や神社の境内によく植えられ、公園樹、街路樹としても多いです。材は緻密で光沢があり、天井板、床板、碁・将棋盤。将棋の駒、まな板に利用され、葉は薬用として咳止め、去痰薬などに用いられます。種子は一般にギンナンと呼ばれ、茶碗蒸しの具に入れたり、煎ったりして食べます。

神奈川県、大阪府の木にも選ばれています。区内では蚕糸の森公園や大田黒公園の黄葉がみごとです。

\*気根：空気中に出る根のこと。 \*胚珠：受精して種になる部分。



図は「現色日本植物図鑑」を参考にしました。  
北村四郎 村田源 共著

## みどり探訪

### 落ち葉が生きる公園 (高円寺北二公園)

杉並のみどりとそれに関わる方々をご紹介します。

高円寺北二公園のシノキの根元には落ち葉だめが2基並んでいます。これは、この時期大量に発生する園内の落ち葉を腐葉土にするためのもので、ここでボランティア活動をしているこの地区にお住まいの大原さんと玉村さんが「少し手間をかければ腐葉土になる落ち葉をごみとして捨てるのはもったいない」と思い、設置されたとのこと。最初は1基作ったものの、落ち葉が多くて間に合わず、すぐに2基目を作り、できた腐葉土は園内の花壇に使用しました。

昔から園内や近所の落ち葉掃きをしていた町内会の島田さんのお話だと、多いときは1回の掃除で90ℓのゴミ袋4つもの落ち葉が出たとか。最近では落ち葉だめと共に植栽地の縁に取付けた竹柵の成果もあって、風で道路などに飛んでいた落ち葉もめっきり少なくなったそうです。(ちなみに、竹は宮前公園、柏の宮公園の間伐材を使っています)

「竹柵は今年から始めた新しい試みで、今でも試行錯誤の段階ですが、じっと見守ってくれる地域の方々のためにも努力していきたいです」とのことですが、こういった試行錯誤や様々なアイデア、そして地域の理解により、皆に大切にされる公園が育ちつつあるように感じました。



▲(左から)大原さん、玉村さん、島田さん